

と題して、固定観念にとらわれがちな思考を柔軟にほぐしていただく、大変興味深いご講演を賜りました。

一般演題(口演)では、多職種連携や新たな取り組みに関する8題の発表があり、一般演題(ポスター)では、19題の各医療機関での取り組みが披露され、活発な意見交換が行われました。

当日は、128名の参加者を迎え、盛会のうちに終了いたしました。

本学術集会の開催にあたり、ご支援・ご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

## 第20回広島県支部学術集会

学術集會会長：独立行政法人県立広島病院院長  
板本敏行

2025年9月20日(土)、県立広島病院中央棟2階講堂において第20回広島県支部学術集會を開催いたしました。



会場風景

テーマは「病院経営の改善に少しでも貢献するために～各部門の取り組み～」として、医事課、薬剤部、経営企画室、看護部からの演壇者6名によるパネルディスカッションと総合討論を行いました。

パネルディスカッションでは、DPCプロジェクトチームを発足させ効率係数・複雑性係数・救急医療係数を改善する活動や(医事課)、薬剤師不足の改善を目的とした院外処方箋の推進や薬剤管理指導料の請求点数の向上および算定漏れの改善に関する活動が報告されました(薬剤部)。複数の部課に共通した事例としてはRPAの活用が取り上げられ、業務の効率化や統計データの分析及び共有による意識改革などへの効果が報告されました(経営企画室・看護部)。他にも、特定行為研修修了者の活用や多職種により構成されたチーム活動による、入退院支援体制、応援体制、リシャッフル・補完体制の強化に関する活動などが報告されました(看護部)。

各演壇とその後の総合討論では活発な意見交換や質疑応答が行われ、盛会のうちに終了いたしました。当日は94名のご参加があり、本学術集會の開催にあたり、多くの関係各位にご支援とご協力を賜りましたことに心より感謝申し上げます。以上、ご報告いたします。

## 第22回京滋支部学術集會

学術集會会長：大津赤十字病院病院長 小川 修

2025年10月11日(土)に、京都テルサ(京都府民総合交流プラザ)にて第22回日本医療マネジメント学会京滋支部学術集會を開催いたしました。一般演題100題が集まり5会場を用いた開催形式としました。

「笑顔と信頼の病院づくりの工夫」と銘うったパネルディスカッションでは、各地域で先進的役割を担う5名のパネリストにより議論が交わされました。

昼食時には、ランチョンセミナーを4会場設けました。

旭川赤十字病院の牧野憲一名誉院長・特別顧問による「患者さんに笑顔と信頼を提供する病院の質管理」の基調講演、さらに、京都大学医学部附属病院医療情報企画部の黒田知宏教授による「京都大学の医療DX戦略」の特別講演では、数多くの聴講者が集まりました。全体で565人の参加者があり、医療マネジメントに関わる多職種の方々に楽しい学びの1日になったと思います。

本学術集會を開催するにあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました関係各位の皆様心より感謝申し上げます。

## 分科会等開催案内

### 2025年度医療安全分科会(Web開催)

テーマ：医療安全とコミュニケーション

(テクノロジー・人・モノ)

高齢者患者の増加と人材不足や医療従事者の業務負担の増大により、医療現場ではコミュニケーションの質と効率の向上が急務となっています。その一環として、AIチャットボットや会話型AI(例：ChatGPT)の導入が進み、患者との対話や業務支援に活用されています。

本分科会では、医療安全管理者の視点から、テクノロジーと人・人対人・モノなどのコミュニケーションの効果と課題、導入時の組織マネジメントについて議論します。

テクノロジーの導入は、医療現場におけるコミュニケーションの質と効率を向上させる可能性があります。しかし、その効果を最大限に引き出すためには、導入施設と医療安全管理者が協力し、セキュリティ対策や教育・トレーニング、組織マネジメントを適切に行うことが不可欠です。本分科会を通じて、これらの課題と解決策について議論し、今後の医療現場におけるテ